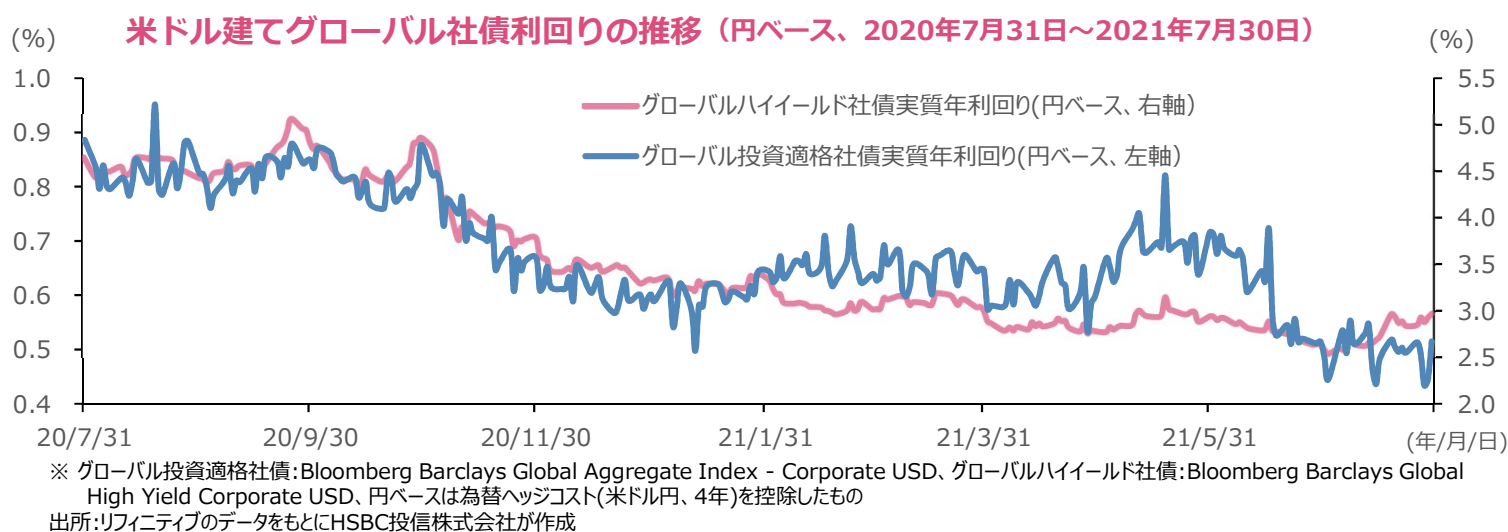


■過去1年の振り返り

過去1年のグローバル社債の投資環境は概ね良好で、投資適格およびハイイールド社債の利回りは低下（債券価格は上昇）しました。本年1月後半以降、米国におけるインフレ懸念および金融政策に対する不透明感等により、米国の長期金利が上昇した影響を受け、投資適格社債市場は軟調な展開となりましたが、足元、再び上昇に転じています。好パフォーマンスであったセクターとして、財務内容が良好でコロナ禍の影響が軽微であった銀行や航空需要の拡大による航空機リース等の金融セクター、商品価格の上昇の恩恵を受けたエネルギーおよび素材セクター、ワクチン接種の進展等に伴う経済回復の恩恵を受ける景気敏感関連のレジャー等の消費セクター、不動産価格の上昇が追い風となった不動産セクターが挙げられます。

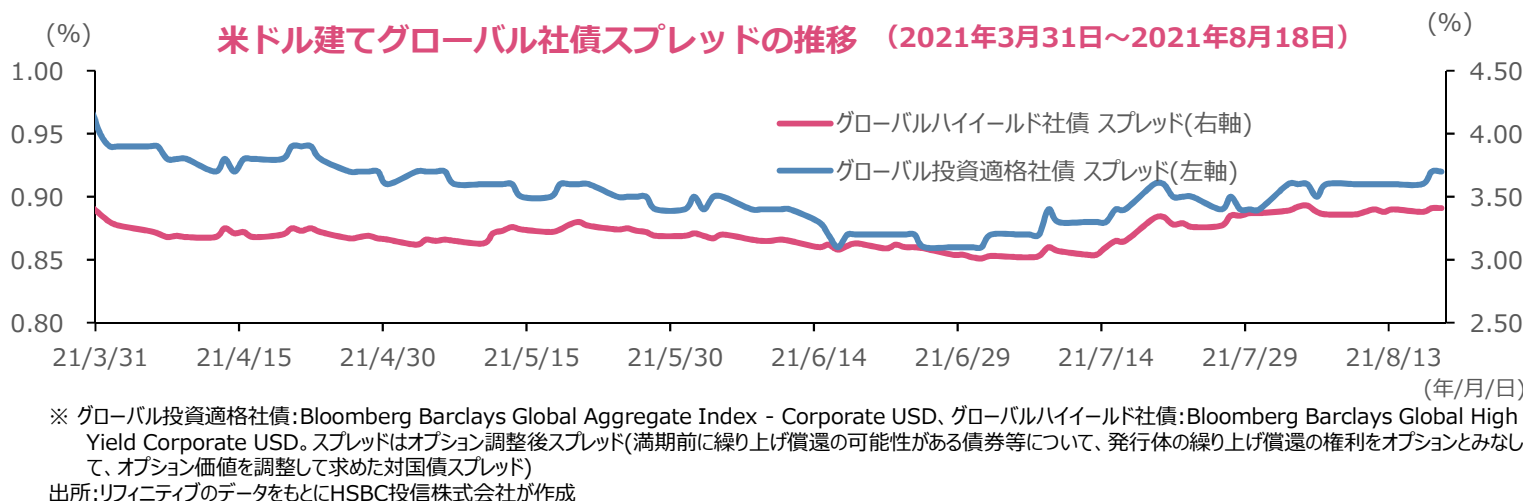
一方、本年6月後半以降の世界的な新型コロナウイルスの変異株の感染拡大により経済回復の遅れへの懸念から、世界的に株価は軟調となる中、信用スプレッドの拡大によりグローバル社債市場、特にハイイールド社債の利回りが上昇（債券価格は下落）しました。



■今後の見通し

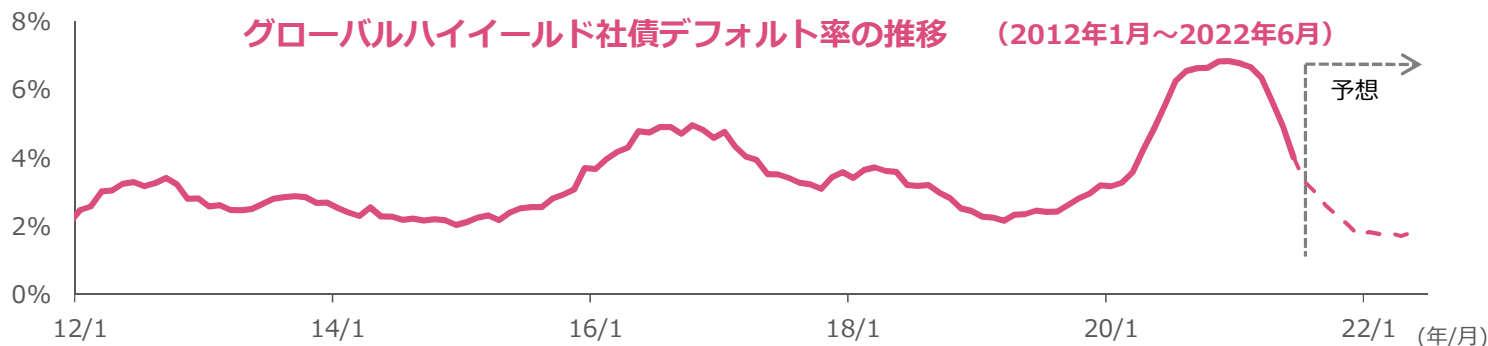
短期的視点

本年6月以降のグローバル社債の信用スプレッドは拡大傾向（価格下落要因）にあります。これは上節に記載の通り、新型コロナウイルスの変異株の感染拡大により世界経済の回復の遅れへの懸念等が要因と考えられます。しかしながら、世界経済は引き続き拡大期に移行しているとの見方は変わっておらず、グローバル社債市場の中期的なファンダメンタルズは改善傾向にあります。



中期的視点

グローバル社債、特にハイイールド社債のファンダメンタルズにおいて重要な指標であるデフォルト率の推移です。2020年入り後、コロナ禍の影響で急上昇したデフォルト率ですが、昨年12月をピークに下落しています。来年に向けて一段の下落が予想されており、グローバル社債の投資環境は良好と想定されます。



※ グローバルハイイールド社債のデフォルト率、12ヶ月移動平均、2021年6月まで実績、2021年7月以降はムーディーズによる予想
出所:ムーディーズのデータをもとにHSBC投信株式会社が作成

■主な注目セクター

投資適格の米国の銀行

投資適格の米国の銀行社債は、今後3～5年は堅強な信用特性を維持すると考えます。この安定した見通しは、銀行規制が厳格なままであり、経済に対して寛容的な政策が経済や市場の混乱を和らげるということを反映します。また、ストレステスト、消費者保護および他の規制は融資基準の緩和や過度な株主利益還元のリスクを減少させると見えています。加えて、米国の銀行の多くは堅固な資本、利益の拡大、効率的なリスク管理を有します。

自動車

生産停止、半導体不足問題および商品価格の値上がり等によるコスト上昇圧力は継続すると見られますが、当社は向こう3～5年において、自動車セクターの見通しは改善すると予想します。電気自動車（BEV）の普及は今後拡大する見込みですが、自動運転技術の開発努力に沿って、BEVのメガトレンドは確実なものになると考えます。内燃機関（ICE）の排出制限やBEVの生産により開発コストが上昇し、収益性や利益率は低下圧力を受けていますが、コスト削減を実現させる製造工程の改善により、BEV開発技術およびバッテリー技術・素材の双方の最適化を通じて、利益率は向こう5年で緩やかに改善すると予想します。

米国の通信

短・中期的見通しでは、5G構築が焦点と言えます。主要企業のAT&Tやベライゾンでは、設備計画において、従来型のネットワーク構築より少額が必須となる中、周波数オークションやM&Aなどによりレバレッジが拡大したため、両社では信用力評価が見直され则认为します。同じく主要企業のTモバイルはスプリント買収による規模の拡大を通じて、AT&Tやベライゾンなどの業界リーダーと同規模に成長すると思われる。米国通信業界は実質的に上述の3大企業の寡占状態であり、今後の事業展開は比較的に見通しやすいと考えます。

投資適格のヘルスケア

投資適格のヘルスケアは、そのディフェンシブ性から、強力なキャッシュフローや高い利益率を背景に、コロナ渦においても、耐性を示しています。また、世界的な中所得者層の拡大を通じて、ヘルスケア製品・サービスへの長期的な需要は引き続き高いと考えます。コロナ渦や米国での政策の先行き不透明感を受けて、M&Aは過去と比較して停滞しています。こうした中、各企業はバランスシート上にて流動性を高めた結果、より耐性のある財務状況となり、新たな事業展開を通じた成長機会はいずれあると考えます。

出所: HSBCグローバル・アセット・マネジメント（米国）のコメントをもとにHSBC投信株式会社が作成

当資料の「留意点」については、後掲をご覧ください。

投資信託に係わるリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象としており、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し損失が生じる可能性があります。従いまして、投資元本が保証されているものではありません。投資信託は、預金または保険契約ではなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の投資信託は投資者保護基金の保護の対象ではありません。購入の申込みにあたりましては「投資信託説明書（交付目論見書）」および「契約締結前交付書面（目論見書補完書面等）」を販売会社からお受け取りの上、十分にその内容をご確認頂きご自身でご判断ください。

投資信託に係わる費用について

購入時に直接ご負担いただく費用	購入時手数料 上限3.85%（税込）
換金時に直接ご負担いただく費用	信託財産留保額 上限0.5%
投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用	運用管理費用（信託報酬） 上限年2.20%（税込）
その他費用	上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。 「投資信託説明書（交付目論見書）」、「契約締結前交付書面（目論見書補完書面等）」等でご確認ください。

※上記に記載のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

※費用の料率につきましては、H S B C 投信株式会社が運用するすべての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託に係るリスクや費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、かならず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、H S B C 投信株式会社（以下、当社）が投資者の皆さまへの情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料は信頼に足ると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。
- 当資料の記載内容等は作成時点のものであり、今後変更されることがあります。
- 当社は、当資料に含まれている情報について更新する義務を一切負いません。

H S B C 投信株式会社（2021年11月1日にHSBCアセットマネジメント株式会社に商号変更します。）

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第308号

加入協会 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/日本証券業協会



ホームページ

www.assetmanagement.hsbc.co.jp



電話番号 03-3548-5690

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）